

千産千消 のススメ

農業のまち、ちとせ

市街地から車で10分ほど走ると、目の前には一面の農村風景が広がります。「空港」や「自衛隊」の印象が強い千歳は、石狩管内第1位の生産額を誇る「農業」のまちでもあります。

市は、千歳産の農産物を千歳市民が消費する「千産千消」を進めています。

今月の特集は、農業の新しい担い手が抱く「千産」への思いや、生産者と消費者の交流の場をつくるグリーン・ツーリズムの活動など、さまざまな「千消」の取組を紹介し、「農業のまち、ちとせ」の魅力についてお知らせします。

1. 千産

千歳は、農産物の大消費地である札幌に近接しています。また、空港や港、道路など交通の利便性が高く、農業の大規模経営と近代化の進んだ、道内でも有数の農業生産地帯になっています。

市の東部を中心に、大豆・てん菜（ビート・砂糖の原料）・小麦などの畑作、キャベツ・だいこん・そばなどの生産、酪農、養豚・養鶏などの畜産が盛んに行われています（左の表参照）。農業のまちを支える農家は、現在、市内全体で約230戸。その数は20年前と比べて半減しています。生産者の高齢化と後継者不足は大きな課題です。

この課題に広域的に対応するため、千歳を含む近隣の4市と農協の出資により道央農業振興公社を設立し、新規就農者の育成などの取組を行っています。平成20年度には就農希望者を研修生として受け入れる制度をつくり、この制度を活用して千歳で就農する方も増えています。